

定部金貳錢 廣(五號十二) 休(日曜大祭) 福島縣石城郡平町田町卅六番地
 一月極三限り 告(字詰一) 刊(日曜) 福島縣石城郡平町田町卅六番地
 價(一ヶ月) 料(五十錢) 日(祝日) 印刷所 一〇活版所

常新新聞

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地
 印刷所 常盤毎日新聞社

三月三日 夕刊

カテイラン

訪問時の心得(二)

もし土産物などを持参したときは一通り挨拶をすまして後に差し出します。歸りがけにおくことはよろしくありません。しかし同行者の中自分だけ土産を持参したときは、別室で出しても

寄書

華族

中山雅司

華族を皇室の藩屏なりと言ふは上御一人の稜威を汚し奉らざるための藩屏にして別に意味なし

されど今日の華族なるもの動もすれば皇室の藩屏たる意味を取り違ひ、陛下の赤子たる平民を有難き大御心より遠ざけて渡瀬せむとする如き藩屏を築き藩屏の下に下さらしに一大溝梁を穿てり、巍々たる邸宅の宏壯酒々たる別荘の風月出入の馬車と自働車を以て既に遺憾なく彼等は華族たる資格を備へたるものとなせり

いわゆる公卿華族大名華族新華族の公侯伯子男中もし國家の功勞に酬いられしものとするは寧ろ新華族に華族の待遇を受くべき意味あり加之功勞の意味は其人の一代に止て財産の如く子々孫々に傳ふべき理由なし

まして舊華族の今日は遠き祖先の餘慶に暖衣飽食して生れながら特殊の肩書を所有せるもの猶更ら社會へ對する申譯は他みたる系圖一なり

募集

文藝其他一般投稿を募集します

日の殿様は何事も御存じない上品馬鹿にあらずして平氣で待合の勘定を踏み倒すほどの下司馬鹿なり

華族にして自ら誇れるもの多くに下情に通ずるの一語を以て得々たれど彼等の下情は實際世態人情にあらずして殆ど常識以外の劣情にして質屋の利息を知れる位の處が上の部なり加之自己の財産は飼犬に食はれても御存知なき峯馬鹿共の寄合なり

是非

御求めの際は

平町二丁目(電話一五六番)

三井ハキモノ店

着けます。しかし、襟巻や帽子、手袋などはなるべく二三間歩んで後につけます

看護婦派出の求めに應ず

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

平町長橋町三五

川崎回文庫

(申込次第規則書進呈)

外交員募集

業務簡易月収百圓以上あり
 各自住宅に在りて本店との連絡取れます
 御希望の方は履歴書持参の上御來談あれ外に優遇の方法あり

平町南町二〇(公會堂角)

福島無盡株式會社
 平町代理店 大谷保太郎商店
 現物賣買株式會社 電話三三四番

製材機械、人魚印丸鋸

自動注油メタル、プリーパー
 ゴムベルト、バラタベルト 在庫

平町月見町

佐藤鐵工所

電話三六二番

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

錦 格 拂込 時價	
磐城銀行	五〇〇
平銀行	五〇〇
磐城銀行	五〇〇
磐城銀行	五〇〇
田村實業	三〇〇
四倉銀行	一七五
農工銀行	二〇〇
同 新	一五〇
百七銀行	五〇〇
同 新	一五〇
七七銀行	一五〇
郡山電氣	五〇〇
同 新	二五〇
只見川電	一五〇
植田水電	一五〇
好問水電	一五〇
磐城製菓	一五〇
平信託	五〇〇
磐城製菓	一五〇
植田物産	三〇〇
平製水	二五〇
好問軌道	五〇〇
入山新	三二五
小田炭礦	二五〇
磐城炭礦	五〇〇
同 新	二二五
磐城セメント	五〇〇
同 新	一七五
平運送	一五〇
同 新	一五〇

丸登株式會社

平町田町 電話三三三番

川添房二郎

農村振興の實際方策を論ず(十)

不替大岳人

それには現在の學科に更に加へて最新科學たる醫學生理學法津政治學等の綜合的概括教育を施すも一方法であらう強制教授の方法も或は時と場所によつて可なる事もあらう林間又は海濱に於ける夏期大學講習の方法も可であらう知名の士を頼んで講演も大いに結構であらう其他幾多の方法が存在するのである

現在青年團は全國に於て萬

東新株

先限 實物

平町田町 電話三三三番

丸登株式會社

川添房二郎

營造物として巡回教師の設備を整へて居ないが此れ國家公共團體自らが地方青年團の教育を怠るものであると謂はねばならぬ

自治行政の完備よりするも地方人士の智識の開發の点よりするも右の如き設備を益々盛大にして以て地方農村の教育に貢献する様に致し度いものである。而して熟々思ふに今や農村は山間僻地に至る迄小作爭議の頻々として起りつゝあるを見るが此即ち大農制度により小作人の經濟的壓迫に堪え兼ねた不平の爆發であつて亦止むを得ない現象である

入山坑燃焼の爲め

湯本の 一滴も出ない

からうじて流出する水は

多量の硫酸を含む

石城郡湯本町は飲料水に窮乏を告げ一里も離れた水野谷又は内郷村方面から貫き水を爲し漸く、うるほいを得て居る事は既記の如くであるが入山第五坑の火災以來温泉全く枯渇し一滴の湯も出なくなつた計りか石炭が燃焼した爲め一種の化学作用を起し辛うじて流出し来る水は多量の硫酸をふくみ鉄物類は腐蝕し人體にも害ある等の關係から住民は非常の迫害を蒙つて居る

就學兒童の届出が少くない

期日は明日迄

平町本年度の就學兒童は既記の如く五百五十九名ある筈であつて是れが届出は明日迄であるに拘らず締切期日の本日迄に届出たる者は僅か百六十七名に過ぎないとの事であるが期日が過ぎると入學手續に非常な面倒を來すから是非明日迄には種痘證を携帶して役場に届出され度しとの事だが若し種痘證がなければ兒童を連れて來ればよいといふ

山家育ち

今日憲派の豫選會 結局比佐氏か

石城憲派では明日四日午後一時から代議士候補者の豫選會を開く筈であるが話頭を賑はした木田織江氏は三ヶ月以前に村長を辭職して居なかつたから當然被選舉權がなく其外ズト見渡した處何れを見ても山家育ちと云つた調子で野望を抱いて居る者もなさそうだから結局前同敗地に塗れた比佐昌平氏を擔ぎ出す事になるであらうとの由で野崎滿藏氏は語る『御觀測通り比佐君でせう神谷の志賀君等もマンザラでないかも知れないが何しろ被選舉權がない

珍聞奇聞

◆親子三人情死 東海道裾野驛の附近に年令卅歳位の男と廿二三位の女と三つ位の男兒と枕を並べて情死
◆十五萬圓横領 淀橋銀行の頭取中村友次郎は友人に土地を周旋し其代金十五萬圓を受取つた儘横領費消
◆電車に一萬圓 東京府下代々木治山龜一(六)は國庫債券一萬圓を風呂敷に包み電車の中へ置きわすれた
◆お醫者が魔術 オースタラー大學のノインクラ博士は眼球の入替は勿論の事首の繼替まで自由自在だ

飯野の白土氏 獨逸へ

應用化學を 研究の爲め

石城郡飯野村出身にして現に長野縣立工業學校の教頭である白土萬次郎氏は應用化學研究の爲め二ヶ年間獨逸へ留學すべく來る十三日横濱出帆の平野丸にて渡歐の途に着く筈右に關して同氏は最も親交ある山崎清三氏は左の如く語つた『白土君は實に篤學の士であつて立志傳中の人物も云ふべきである、明治卅一年に平町小學校を卒業後四倉小學校に教鞭を執り後本縣師範學校に學

点及び基本取扱の標準如何と「教師の實力養成の方法如何」に就いて協議した
平第一遠藤寅次、藏持新家芳美、内郷第二佐藤久太郎、平第二神林專一、岩崎第一岡見清、平窪長谷川親、窪田第二吉田政一、小名濱松本龜次郎

クレー射撃

優勝者の氏名

平獵友會の常設射撃場開設披露を兼ねたクレー射

追々春蠶の準備を

梅一輪づつの暖かさに 相場は十二圓内外

梅一輪づつの暖かさもいや増して陽春三月となつた爲め追々春蠶掃立の準備もしなければならぬ時節に成つて來た本年の天候はさうであるか小名濱測候所の觀測に依ると早霜は多少まぬかれまいと云ふことである又産繭の値段は、目下の處からおして見ると十二圓内外位だらうと思はれるが何れにしても余り安いことはなからうと

眞面目な問題

斯く考へるべき女性の戀愛觀は充分の證據を得ることになる。戀愛は眞實を伴ねばならぬ。斯くして戀愛と眞實とは處女の生命になることが出来る。若し清淨なる女性が、その高潔な女性の理想を完成せ

天然痘警戒

平署検病調査

平警察署では管内全部に亘つて宿屋を調査して旅行者を警戒し又一方種痘施行を奨励する事にしたが更に廿九日から検病戸口調査を開始し未種痘者の發見並に種痘施行を奨励し豫防警戒する事になつた、而して平署管内で去二月一日以來種痘を受けたものは僅か三千六

史蹟名勝の講習會を開く

石城郡で

石城郡にては三四の兩日午前九時から郡會議事堂にて史蹟名勝天然紀念物調査講習會を開く筈で講師は内務省考査員柴田常恵、本縣調査委員小此木忠七郎の兩氏である

公人私人

◆内ヶ崎作三郎氏(早大教授)昨夕大森岡長宅の平青年團主催講演會にて「大震災後に於ける日本の國際的地位の變動」と題する講演を試む。
◆丸山河太郎氏(辯護士)東京にて辯護士を開業して居たが有志の乞ひに應じ平町才地小路に門戸を開く事となつた。
◆宮田三郎氏(いばらき營業部長)明日午前十一時平驛發にて赴任

不平受付

投書募集

獨特の天稟を有する人にて今回出品せるは焦土の中から苦作したものであると
◆不平の石垣 平警察署火の見櫓の下の石垣は鐵の鎖が切れ石柱の頭は缺けて實に見苦しく警察署の威嚴を傷くるものと思ふ我々平の住民として遺憾千萬です、伊藤署長の一考を煩し度い

平町人事

▲出生 田町 金子重次氏二女トミ子
▲死亡 胡摩澤 生田登美子(七) 新川町 當時英城縣多賀郡松岡村 丹野辰吉(七)

震災半切展畫

鈴木畫伯の

佐瀬郡長其外發起にて浪江町出身鈴木王羊畫伯の震災紀念半切展畫會を協樂亭に於て二三の兩日開催したが氏は中村不折氏に師事して洋畫を研究し一方日本畫も

藤原青年總會石城郡

磐崎村藤原青年團にては五日午後一時から同村第二小學校にて總集會を開く由

◆藤原の由氏は來る六日平區裁判所視察の爲め來半する筈なので當日午後六時から谷口樓にて歓迎會を開く

◆藤田女生見學平町田町藤田裁縫女學校にては一日昨日裁縫教員養成科生徒廿三名を三名の教員引率し平第二小學校の裁縫實地教授を見學した